

I 茨城県常住人口調査結果の概要

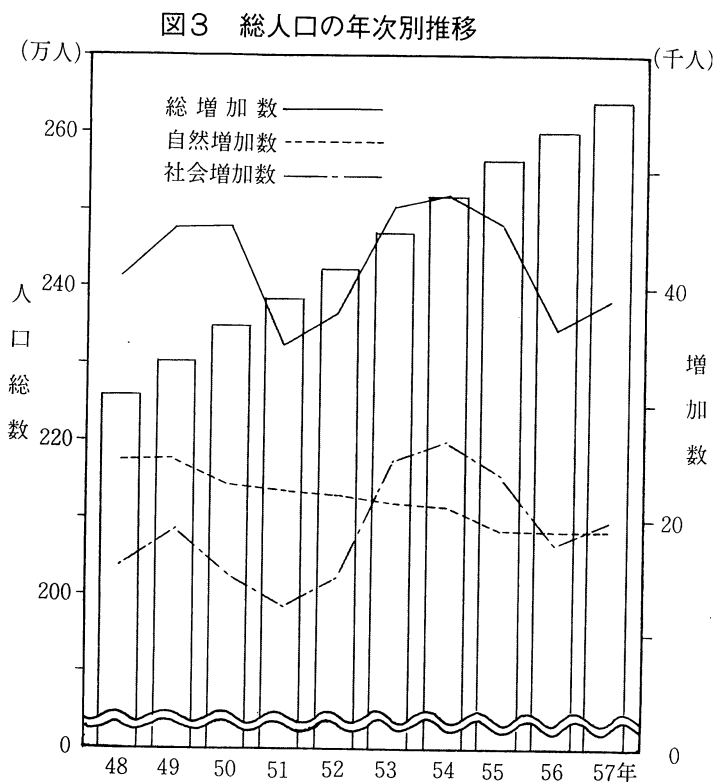
1 人 口

(1) 総人口の推移

昭和58年1月1日現在の本県推計人口は 2,641,112人である。

本県の人口は、第1回国勢調査の行われた大正9年には、1,350,400人であった。以降昭和30年まで増加を続けた。増加率は、大正9年から昭和15年まで、各5年間に4.2~5.5%であったが、昭和15~20年には戦時中の疎開による人口流入によって20.0%と高い増加率を示した後、昭和25~30年の1.2%まで低下した。その後、昭和30~35年には、0.8%の減少がみられたが、昭和35年以降現在に至るまで増加しており、増加率は昭和35~40年の0.4%、45~50年の9.3%、50~55年の9.2%（年率換算 1.8%）。そして、57年1年間の増加率は1.5%となった。

なお、昭和57年10月1日現在推計人口（総理府統計局）によると、本県人口は全国人口の2.2%を占め、全都道府県中12位、面積は6,093平方キロメートルで全国総面積の1.6%を占め24位であるが人口密度は1平方キロメートル当り432人で全国の316人を上回り全国13位である。



(2) 昭和57年の人口概要

昭和58年1月1日現在の本県人口は、2,641,112人（男 1,314,612人、女 1,326,500人）となり、57年1年間における増加は38,123人、増加率は1.5%で、前年（1.4%）より0.1ポイント増加した。

人口増加の内訳をみると、自然増加18,725人（増加率 0.7%）社会増加19,398人（増加率 0.7%）で、その割合は、自然増加が49%（前年51.7%）、社会増加が51%（前年48.3%）となっている。前年は自然増が社会増を上回ったが、本年再び逆転し、わづかながら社会増が上回る結果となった。

市町村別に人口増減をみると、92市町村のうち16市59町村で増加し、2市15町村で減少している。主な増加市町村では、牛久町 2,760人（前年 3,261人）、水戸市 2,696人（前年 2,614人）、勝田市 2,673人（前年 2,350人）、守谷町 2,393人（前年 632人）の順となっている。

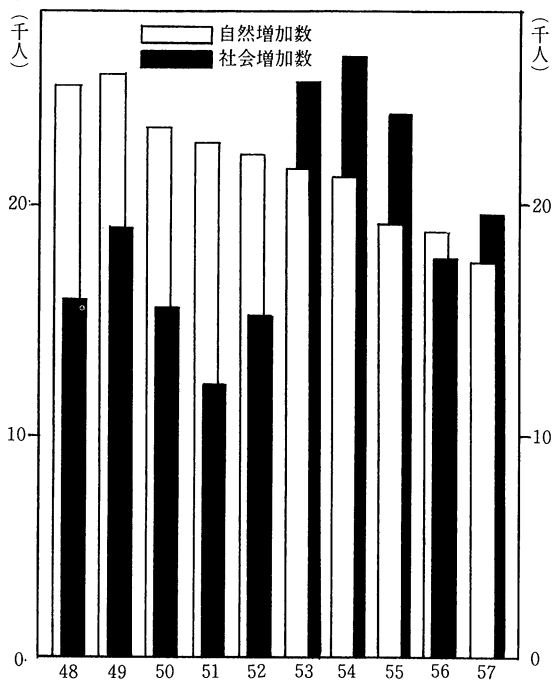
一方減少した主な町村は、大子町 436人（前年 299人）、水府村 96人（前年 94人）、金砂郷村 95人（前年 77人）、大洗町 93人（前年 151人）、里美村 80人（前年 69人）となっている。

表1 人口の推移

年次	総人口	増加数	増加率
53	2,472,359人	47,632人	1.9%
54	2,520,740	48,381	2.0
55	2,566,434	45,694	1.8
56	2,602,989	36,555	1.4
57	2,641,112	38,123	1.5

※各年12月末日現在推計人口

図4 自然増加と社会増加の推移



(3) 人口の動向

ア 地域別人口

本県を5地域に分けた人口分布を昭和58年1月1日現在で見ると、県北平担30.1%と最も高く、次いで県南28.9%、県西20.2%、県北山間11.6%、鹿行 9.2%の順となっている。

57年中の人口増加をみると、県南が20,634人（県全体の54.1%）で最も高く、以下県北平担 8,279人（21.7%）、県西 6,612人（17.3%）、鹿行 2,156人（5.7%）、県北山間 442人（1.2%）となっている。このような県南の人口の増加に伴って人口分布が変化しており県南が県北平担に近づいてきている。

これを自然、社会動態別にみると、自然増加では、鹿行の0.9%（前年0.9%）、県北平担の0.8%（0.9%）、県南0.7%（0.8%）、県西0.7%（0.7%）、県北山間0.3%（0.3%）となり、また社会増加では、県南が2.0%（2.0%）と最も高く、以下県西の0.6%（0.5%）、県北平担0.2%（0.1%）の増となったが、鹿行は0.0%（0.1%）及び県北山間は0.2%（0.1%）の減少となっている。

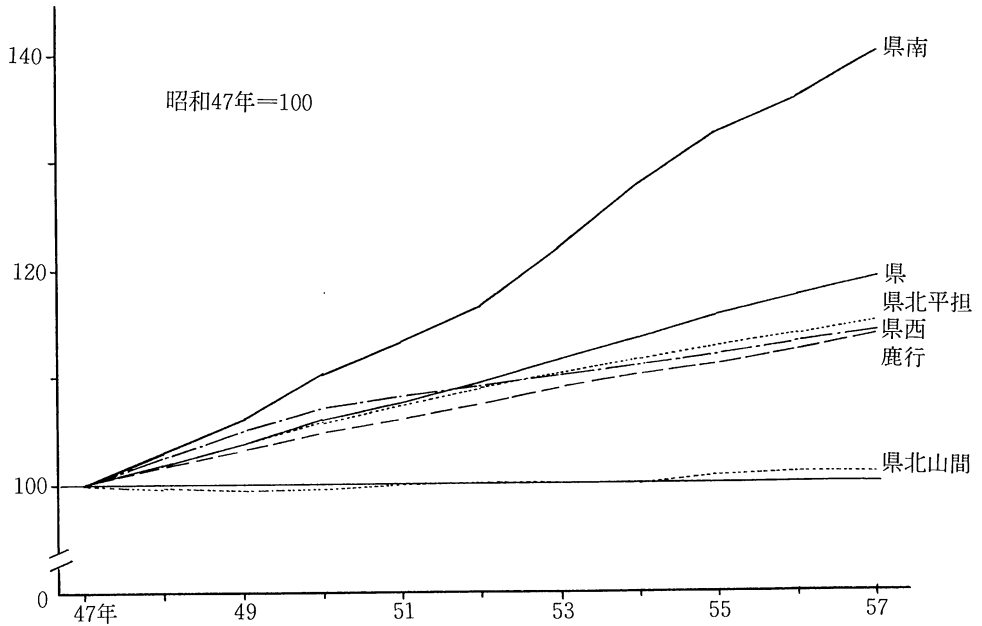
表2 地域別人口の推移

（単位：人、%）

年次		53	54	55	56	57
地 域	地 域					
	総 数	2,472,359	2,520,740	2,566,434	2,602,989	2,641,112
	人口分布	100	100	100	100	100
県	増 加 率	1.9	2.0	1.8	1.4	1.5
	総 数	761,588	770,804	778,857	786,395	794,674
	人口分布	30.8	30.6	30.3	30.2	30.1
県北平担	増 加 率	1.4	1.0	1.0	1.0	1.1
	総 数	302,395	302,461	305,125	305,547	305,989
	人口分布	12.2	12.0	11.9	11.7	11.6
県北山間	増 加 率	0.0	0.0	0.9	0.1	0.1
	総 数	234,778	236,700	238,977	241,411	243,567
	人口分布	9.5	9.4	9.3	9.3	9.2
鹿行	増 加 率	1.0	0.8	1.0	1.0	0.9
	総 数	664,632	695,983	723,180	743,271	763,905
	人口分布	26.9	27.6	28.2	28.6	28.9
県南	増 加 率	4.2	4.7	3.9	2.8	2.8
	総 数	508,966	514,792	520,295	526,365	532,977
	人口分布	20.6	20.4	20.3	20.2	20.2
県西	増 加 率	1.3	1.1	1.1	1.2	1.3

※ 各年12月末日現在推計人口

図5 地域別人口の推移



イ 市郡別人口

市部、郡部別の人口をみると、市部人口は 1,279,372人、郡部人口 1,361,740人となり、総人口に支める割合は、市部で48.4%、郡部で51.6%となった。郡部人口が高いのは本県の特徴で昭和48年以降更にその差が年々大きくなる傾向となっている。

前年同期と比較すると、市部で15,383人（増加率 1.2%）、郡部で22,740人（1.7%）増加している。増加率の高いのは、北相馬郡 7.8%、竜ヶ崎市 4.0%、稲敷郡 3.2%、猿島郡 2.9%、勝田市 2.8%の順となっており、久慈郡及び那珂湊市は前年に引き続き減少し、本年は更に常陸太田市が減に転じた。

図6 主な市郡別人口指数

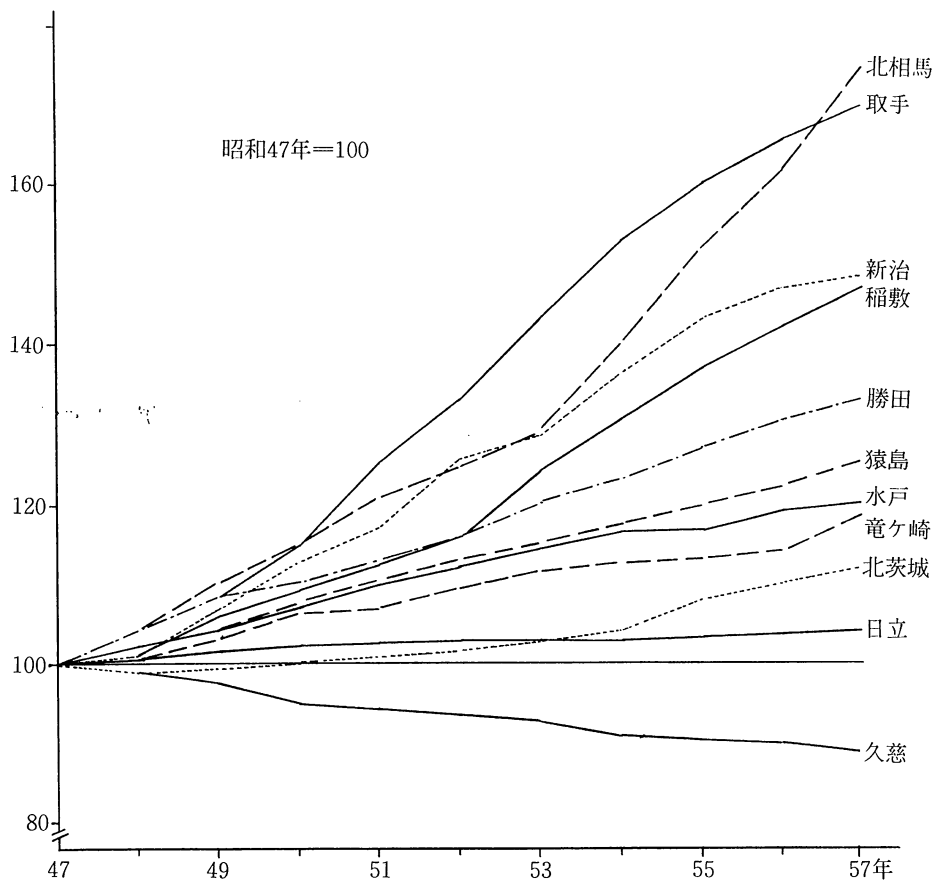


表3 市郡別人口の推移

区 分		53	54	55	56	57
県	人 口(人)	2,472,359	2,520,740	2,566,434	2,602,989	2,641,112
	増加率(%)	1.9	2.0	1.8	1.4	1.5
市 部	人 口(人)	1,217,477	1,234,771	1,250,108	1,263,989	1,279,372
	割 合(%)	49.2	49.0	48.7	48.6	48.4
	増加率(%)	1.6	1.4	1.2	1.1	1.2
郡 部	人 口(人)	1,254,882	1,285,969	1,316,326	1,339,000	1,361,740
	割 合(%)	50.8	51.0	51.3	51.3	51.6
	増加率(%)	2.2	2.5	2.4	1.7	1.7

※ 各年12月末日現在推計人口

ウ 男女別人口

昭和58年1月1日現在の本県人口を男女別にみると、男 1,314,612人、女 1,326,500人で、女の方が男より11,888人多く、性比（女子 100人に対する男子の数）は、99.1で、これは全国の性比96.9（57. 10. 1）を2.2ポイント上回っている。

本県人口の性比を年齢別にみると、54歳までは22歳（99.0）を除きすべて100を上回り、特に40～44歳階級は111.4、45～49歳階級は109.2と中年層の性比がかなり高くなっている。55歳以上になると100を下回り55～59歳が91.2、その後65～69歳が77.6、75～79歳が71.4と年齢が高くなるに従ってその差は大きく低下している。

市郡別の人口の性比をみると市部が98.1、郡部が100.0で郡部の男女別人口はほぼ同数となった。

次に動態別にみると、自然動態では、出生が男51.5%、死亡が男52.9%といづれも男の割合が女より高く、社会動態においても、転入が男57.7%、転出が男52.7%と男の移動数が女を上回っている。

表4 地域別性比

地 域	年 次	53	54	55	56	57
県		98.8	98.9	99.0	99.0	99.1
県北平担		98.5	98.6	98.7	98.7	98.8
県北山間		94.4	94.6	95.0	95.0	95.2
鹿行		102.8	102.7	101.5	101.2	101.0
県南		100.0	100.4	100.5	100.6	100.7
県西		98.3	98.5	98.5	98.6	98.7

表5 性比の高い市町村

市 町 村 名	性 比
桜 村	127.1
鹿 島 町	110.3
小 川 町	110.1
谷 田 部 町	109.4
千 代 田 村	107.3

表6 性比の低い市町村

市 町 村 名	性 比
瓜 連 町	89.1
大 洗 町	93.1
桂 村	93.3
常陸太田市	93.3
那珂湊市	93.9

エ 年齢別人口

年齢3区別の人口をみると、0～14歳（以下「年少人口」という）が640,406人、15～64歳（以下「生産年齢人口」という）が1,744,816人、65歳以上（以下「老年人口」という）が255,266人となっており、それぞれ総人口の24.2%、66.1%、9.7%を占めている。

大正9年からの推移でみると、年少人口の割合は大正9年から昭和20年まで37～38%台で推移し、20年を境に45年の24.9%まで急速に低下し、その後も低下を続けているが、その低下率は小さくなっている。逆に生産年齢人口割合は昭和25年以降上昇を続けてきたが、45年の67.2%を境にして低下に転じ56年65.9%となったが、57年は66.1%と再び上昇に転じた。また、老年人口の割合は大正9年の6.2%から昭和25年の5.5%まで低下傾向にあったが、その後は一貫して上昇を続け57年は9.7%となった。

年齢3区別の前年との増減をみると、年少人口は0.2%（1,046人）減少し、生産年齢人口は1.8%（30,599人）増、老年人口は3.5%（8,566人）増となり、生産年齢及び老年人口が伸びている。これを年齢構成指数でみると、年少人口指数 $\left(\frac{0\sim14歳}{15\sim64歳}\right)\times100$ は36.7、老年人口指数 $\left(\frac{65歳以上}{15\sim64歳}\right)\times100$ は14.6、この両者の和に当る従属人口指数 $\left(\frac{0\sim14歳+65歳以上}{15\sim64歳}\right)\times100$ は51.3である。

なお、昭和57年10月1日現在推計人口による全国平均（年少人口指数34.0、老年人口指数14.2、従属人口指数48.2）に比べ年少人口指数は2.7、老年人口指数0.4、従属人口指数3.1ポイントそれぞれ高くなっている。

地域別でみると、年少人口の割合は県北山間が21.2%と県平均24.2%を3.0ポイント下回っているが、他の地域はいずれも県平均を上回っている。生産年齢人口割合では、県北平担が66.8%と県平均66.1%を上回り、他の地域では同率あるいは下回った比率となっている。老年人口の割合は、県北山間が13.2%と県平均9.7%を3.5ポイント上回っているのが目立っている。

図7 地域別年齢3区分別割合

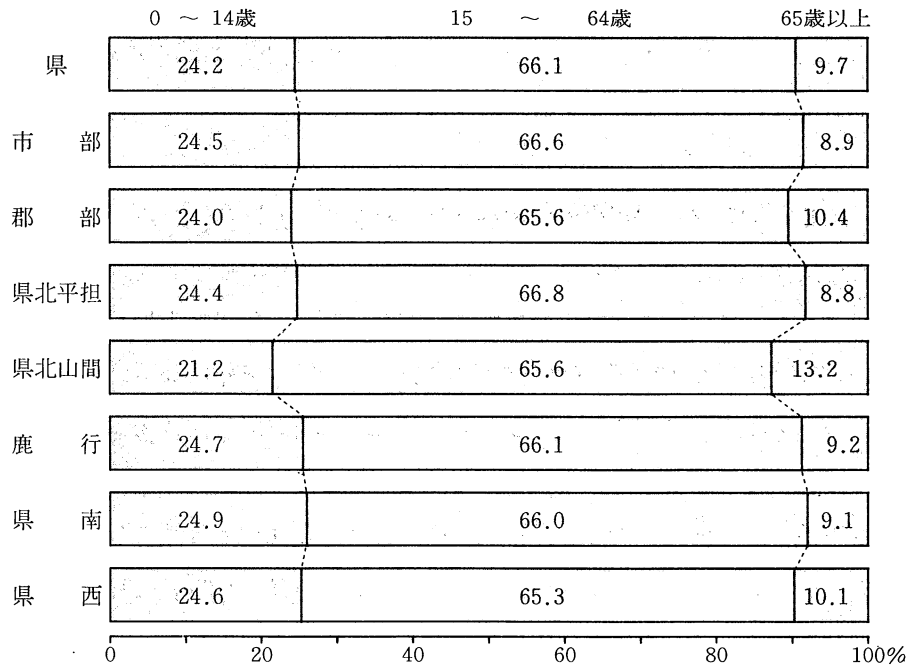


図8 男女別，年齢（5歳階級）別人口構成

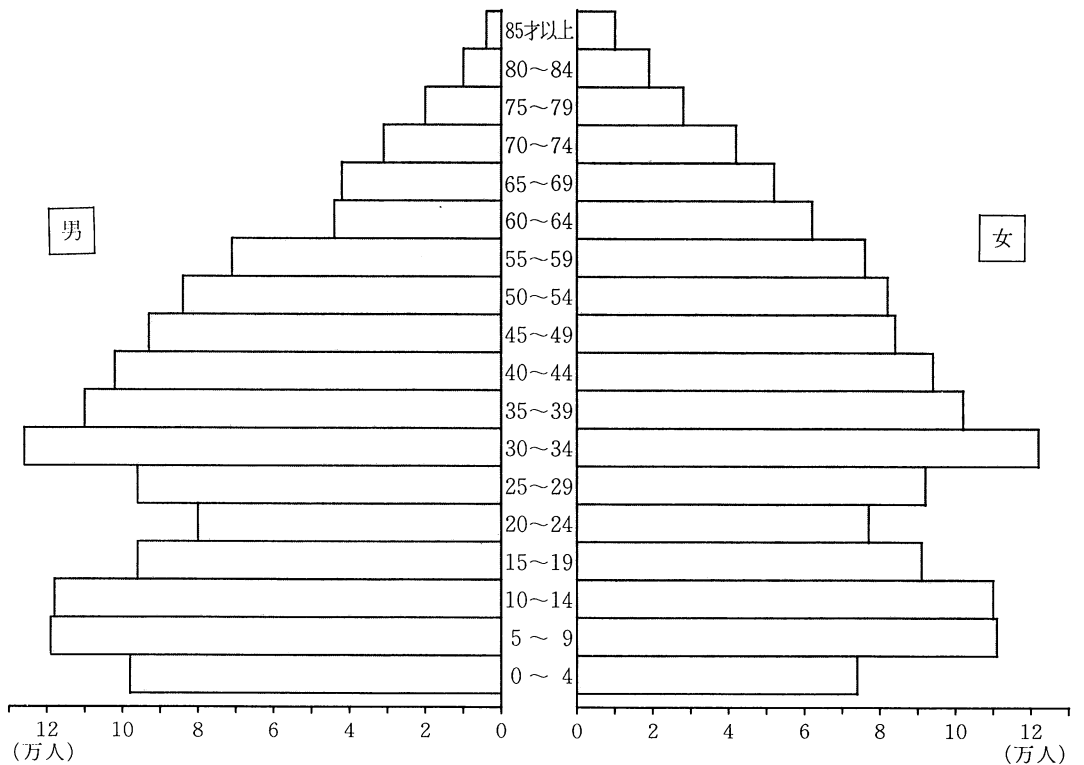


表7 地域別にみた年齢階級別人口

年齢階級	地 域					
	県	県北平担	県北山間	鹿 行	県 南	県 西
総 数	2,641,112	794,674	305,989	243,567	763,905	532,977
0 ~ 4 歳	189,077	56,780	18,878	19,100	55,118	39,201
5 ~ 9	227,189	67,489	22,612	21,220	69,188	46,680
10 ~ 14	224,140	69,648	23,471	19,944	66,087	44,990
15 ~ 19	182,767	58,505	21,876	15,906	50,298	36,182
20 ~ 24	155,290	49,367	16,347	13,438	45,219	30,919
25 ~ 29	184,644	57,623	19,120	19,250	50,151	38,500
30 ~ 34	243,216	73,683	23,703	24,486	72,256	49,088
35 ~ 39	206,556	63,120	18,786	18,461	66,818	39,371
40 ~ 44	190,406	61,450	19,336	16,130	58,397	35,093
45 ~ 49	171,758	53,252	20,512	15,353	49,313	33,328
50 ~ 54	161,897	45,675	22,855	15,350	44,707	33,310
55 ~ 59	143,765	39,035	21,827	13,306	38,767	30,830
60 ~ 64	104,517	29,398	16,233	9,263	27,971	21,652
65 ~ 69	93,061	25,843	13,886	8,118	25,500	19,714
70 ~ 74	74,543	20,276	11,671	6,468	20,533	15,595
75 ~ 79	46,846	12,423	7,643	4,077	12,768	9,935
80 ~ 84	27,182	7,048	4,646	2,451	7,223	5,784
85 ~ 89	10,590	2,866	1,916	986	2,654	2,168
90 ~ 94	2,678	689	549	217	680	543
95 以上	366	83	68	26	105	84
不 詳	624	391	54	17	152	10

表8 年齢（3区分）別人口の状況

年 少 人 口 (0~14歳)				生 産 年 齢 人 口 (15~64歳)				老 年 人 口 (65歳以上)			
割合の高い市町村		割合の低い市町村		割合の高い市町村		割合の低い市町村		割合の高い市町村		割合の低い市町村	
市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合
荃崎町	32.5	金砂郷村	16.7	桜 村	72.2	荃崎町	61.4	緒川村	18.5	桜 村	4.5
利根町	30.6	水府村	17.2	古河市	68.6	利根町	61.6	金砂郷村	17.4	鹿島町	5.6
牛久町	29.6	緒川村	17.9	谷田部町	68.2	御前山村	63.0	御前山村	17.3	取手市	5.6
取手市	29.2	山方町	18.6	東 村	67.5	三和町	63.2	桂 村	17.0	荃崎町	6.0
伊奈村	28.6	里美村	18.8	那珂湊市	67.3	千代川村	63.4	水府村	16.8	勝田市	6.1

2. 人口動態

(1) 自然動態

昭和57年中の自然増加数は18,725人（男 9,411人，女 9,314人）で，増加率は0.7%となり，前年（18,886人）に比べ 165人の減少となった。内訳をみると，出生35,731人（男 18,401人，女 17,330人），死亡 17,006人（男 8,990人，女 8,016人）となっている。

この自然増加の推移をみると，昭和25年の 1.7%が40年の 0.9%まで低下を続けたが，戦後のベビーブーム期に出生した女子が出産世代時期に達した46～49年には，自然増加率は毎年 1.1%と高い水準で推移したが，昭和50年以降低下の傾向を示し，55年には 0.8%，56年は 0.7%となり，57年も前年と同率の 0.7%と戦後 2 番目の低率となった。

これを出生・死亡別にみると，出生率では昭和48年の19.0%をピークとして次第に低

表9 自然増加率の高い市町村 (57年)

市 町 村	増加数 (人)	増加率 (%)	出生率 (%)	死亡率 (%)
鹿 島 町	668	1.7	20.9	4.1
桜 村	496	1.4	16.8	3.0
千 代 田 村	290	1.3	18.7	5.3
神 栖 町	408	1.2	17.4	5.2
勝 田 市	1,106	1.2	15.8	4.2
総 和 町	433	1.2	16.6	5.0
取 手 市	811	1.1	14.7	3.8
三 和 町	285	1.1	17.4	6.6
茎 崎 町	206	1.1	15.3	4.5

表10 自然増加率の低い市町村

市 町 村	増加数 (人)	増加率 (%)	出生率 (%)	死亡率 (%)
瓜 連 町	△33	△0.5	7.8	12.5
金 砂 郷 村	△45	△0.4	8.3	12.6
水 府 村	△22	△0.3	7.5	10.4
緒 川 村	△ 7	△0.1	10.9	12.2
大 子 町	4	0.0	11.0	10.8
山 方 町	11	0.1	10.5	9.3
御 前 山 村	6	0.1	10.7	9.6
美 和 村	4	0.1	12.0	11.3
桂 村	4	0.1	9.7	9.1

表11 地域別・自然増加，出生・

地 域	53 年			
	自 然 増加	出 生	死 亡	
県	人	21,553	37,938	16,385
	%	0.9	15.4	6.7
県北平担	人	8,068	12,176	4,108
	%	1.1	16.0	5.4
県北山間	人	1,271	3,845	2,574
	%	0.4	12.7	8.5
鹿 行	人	2,355	3,938	1,583
	%	1.0	16.8	6.8
県 南	人	5,508	9,942	4,434
	%	0.8	15.1	6.7
県 西	人	4,351	8,037	3,686
	%	0.9	15.8	7.3

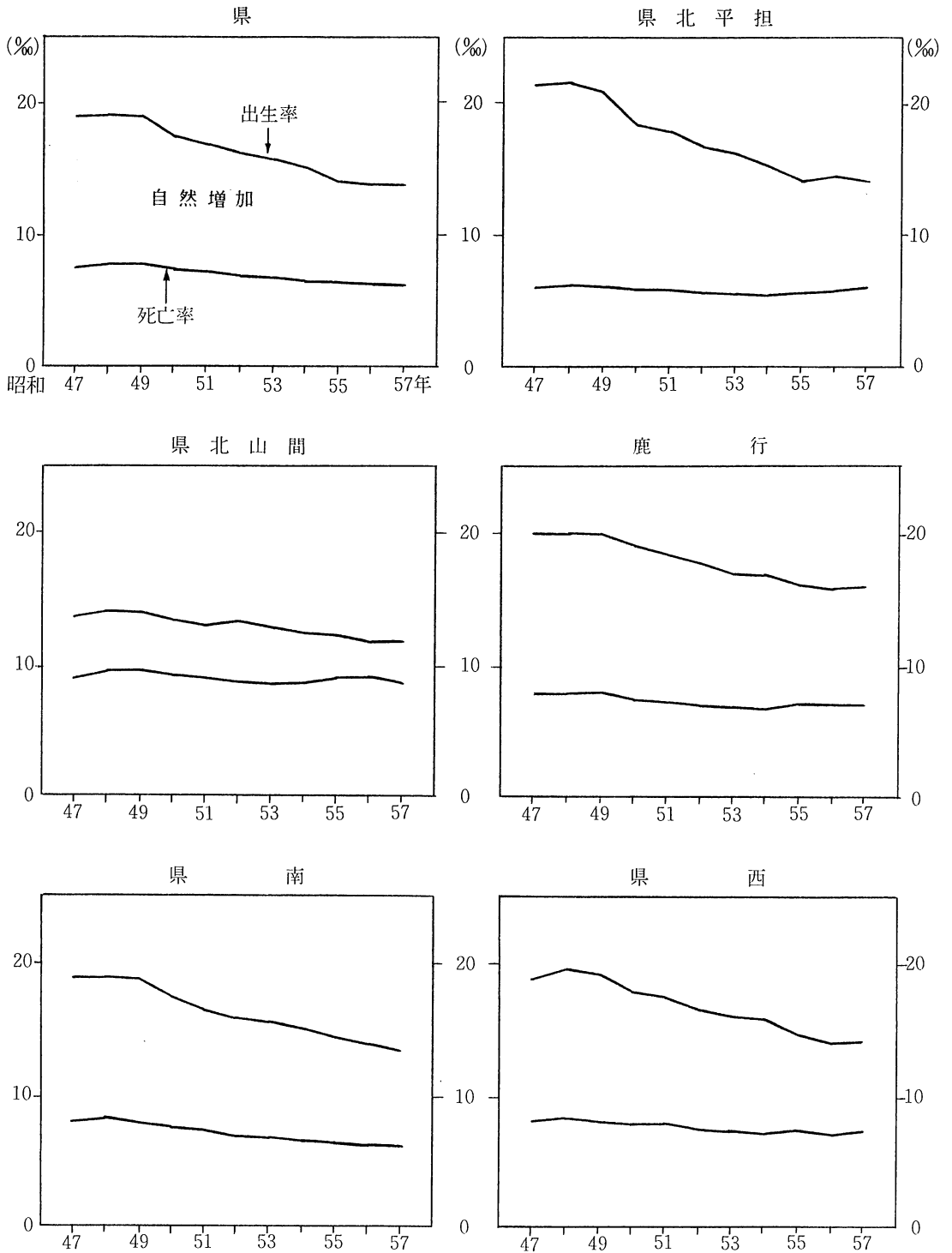
下を続け57年は前年の13.9%を更に下回る13.7%と、昭和41年のヒノエウマの年に次ぐ低出生率となった。また死亡についても平均寿命の伸びと相まって年々低下を続け、57年は6.5%と54年(6.5%)と同率の過去最低の死亡率となった。

地域別に自然動態をみると、前年に比べて県北平担及び県南が0.1ポイント上昇したが、県西・鹿行・県北山間の伸び率は前年と同率となっている。これを出生・死亡別にみると、出生率では鹿行が15.8%と最も高く、以下県西14.1%、県北平担14.0%、県南13.3%、県北山間11.7%の順となり、出生・死亡率でみると、県北山間は最も出生率が低く、死亡率が高い、いわゆる典型的な人口減少型となっている。

死亡数

54年			55年			56年			57年		
自増	然加	出生	死亡	自増	然加	出生	死亡	自増	然加	出生	死亡
21,358	37,394	16,036	18,976	35,712	16,736	18,886	35,766	16,880	12,725	35,731	17,006
0.9	15.1	6.5	0.8	14.2	6.6	0.7	13.9	6.6	0.7	13.7	6.5
7,683	11,748	4,065	6,569	10,759	44,190	6,834	11,248	4,414	6,427	11,031	4,544
1.0	15.4	5.3	0.9	14.0	5.4	0.9	14.4	5.7	0.8	14.0	5.8
1,079	3,673	2,594	935	3,633	2,698	772	3,506	2,734	973	3,568	2,595
0.4	12.1	8.6	0.3	12.0	8.9	0.3	11.5	9.0	0.3	11.7	8.5
2,384	3,930	1,546	2,154	3,818	1,664	2,162	3,796	1,634	2,208	3,816	1,608
1.0	16.7	6.6	0.9	16.1	7.0	0.9	15.9	6.8	0.9	15.8	6.7
5,809	10,043	4,234	5,493	9,926	4,433	5,462	9,908	4,446	5,470	9,914	4,444
0.9	15.1	6.4	0.8	14.3	6.4	0.8	13.7	6.1	0.7	13.3	6.0
4,403	8,000	3,597	3,825	7,576	3,751	3,656	7,308	3,652	3,587	7,402	3,815
0.9	15.7	7.1	0.7	14.7	7.3	0.7	14.0	7.0	0.7	14.1	7.2

図9 地域別自然動態 (昭和47~57年)



(2) 社会動態

ア 社会動態の推移

昭和57年中の社会増加数は19,398人（男 10,173人，女 9,225人）で，増加率0.7%となり，前年に比べ1,729人の増加となった。これの内訳は，転入した人 134,323人（男 70,792人，女 63,531人），転出した人 114,925人（男 60,619人，女 554,306人）となっている。

この推移をみると，昭和30年代の後半から42年までは転出超過であったが，43年から転入超過に転じ，更に53年には社会増が自然増を上回り，以降社会増が人口増加の要因となってきたが，54年の社会増加率 1.1%をピークに減少傾向を示し，56年は0.7%となり，53年以来4年振りに自然増が社会増を上回ったが，57年は再び自然増を上回る社会増となった。

この社会増加の主な要因となっている首都通勤圏としての県南の常磐線沿線市町村の増加状況は表12のとおりであるが，前年に比べてその増加率において地域差が生じている。

表12 首都通勤圏にかかる常磐線沿線市町村の人口増加状況

(単位：人，%)

市町村名	区分	人口増加数	増加率	社会増加数	社会増加率	昭 和	56 年
						増 加 率	社会増加率
常磐線沿線の市町村	土 浦 市	1,812	1.6	1,000	0.9	1.3	0.5
	竜ヶ崎 市	1,764	4.0	1,547	3.5	1.0	0.5
	取手 市	1,960	2.6	1,149	1.5	3.4	2.2
	阿見 町	884	2.6	653	1.9	2.0	1.2
	牛久 町	2,760	6.3	2,445	5.5	8.0	7.2
	莖崎 町	1,397	7.3	1,191	6.2	10.8	9.6
	千代田 村	482	2.2	192	0.9	2.9	1.7
	伊奈 村	657	2.8	518	2.2	5.1	4.3
	守谷 町	2,393	13.0	2,213	12.1	3.6	2.9
藤代 町	1,282	4.7	1,088	4.0	2.5	1.9	
利根 町	1,235	7.1	1,119	6.5	14.4	13.5	
計		16,626	3.8	13,115	3.0	3.8	2.8
その他の市町村		21,497	1.0	6,283	0.3	1.0	0.3
県 計		38,123	1.5	19,398	0.7	1.4	0.7

昭和57年中の地域別の状況をみると、増加数の割合では県南が県全体の78.2%を占め、次いで県西 15.6%、県北平担 9.2%となり、県北山間及び鹿行はそれぞれ2.7%、0.3%の減少となった。

また、社会増加率では県南が2.0%と前年と同率で、依然として高水準を保っており、県西も前年より0.1ポイント高い0.6%となったが、県北山間及び鹿行はマイナスとなり、特に県北山間は前年より更に低下して0.2%減となった。

市郡別に前年と比べると、石岡市・常陸太田市・岩井市及び真壁郡が社会増より社会減に転じた。

市町村別の移動状況をみると、転入超過は11市29町9村で、県南3市17町村、県西4市7町村、県北平担2市8町村、県北山間2市1町村、鹿行5町村と県南・県西の市町村に多い。

表13 地域別社会動態の状況

(単位：人・%)

地 域	昭和58年1月 1日現在人口	移 動 数	移動率	社会増加数	社 会 増加率	昭 和 56 年		
						社会増加数	社 会 増加率	
県	2,641,112	249,248	9.6	19,398	0.7	17,669	0.7	
県北平担	794,674	76,894	9.8	1,792	0.2	704	0.1	
県北山間	305,989	21,395	7.0	△ 531	△ 0.2	△ 350	△ 0.1	
鹿 行	243,567	22,212	9.2	△ 52	△ 0.0	272	0.1	
県 南	763,905	89,942	12.1	15,164	2.0	14,629	2.0	
県 西	532,977	38,805	7.4	3,025	0.6	2,414	0.5	
社会増加率の 高い市町村	県 守谷町	20,739	3,733	16.0	4,420	12.1	512	2.9
	利根町	18,524	2,641	15.3	1,119	6.5	2,041	13.5
	南 葦崎町	20,518	2,589	13.5	1,191	6.2	1,658	9.6
	牛久町	46,847	6,221	14.1	2,445	5.5	2,945	7.2
	県西 三和町	27,628	3,242	12.4	1,136	4.3	922	3.7
	県 谷田部町	32,675	5,963	19.1	1,271	4.1	1,305	4.4
	南 藤代町	28,534	3,658	13.4	1,088	4.0	497	1.9
	竜ヶ崎市	45,396	5,347	12.3	1,547	3.5	200	0.5
	県西 総和町	39,049	4,760	12.7	1,138	3.0	520	1.4
	県南 豊里町	11,886	808	7.0	266	2.3	25	0.2

イ 転入・転出

昭和57年中の移動者総数は249,248人（転入者 134,323人，転出者 114,925人）のうち県外との交流は137,973人で移動総数の55.4%，県内間の移動者は108,950人で移動総数の43.7%である。

県外との交流を転入転出別にみると転入 78,639人，転出 59,334人，差引増減は19,305人の転入超過となり前年（転入超過 18,267人）に比べ1,038人多くなっている。

県外のうち関東近県との移動状況をみると，東京都が最も多く県外移動総数の29.2%を占め，次いで千葉県，神奈川県，埼玉県，栃木県，福島県の順となっている。

地域別に県外との移動状況をみると，県南が県外移動総数の41.1%を占め，次いで県北平担26.8%，県西16.7%，鹿行 9.0%，県北山間 6.4%の順となっている。

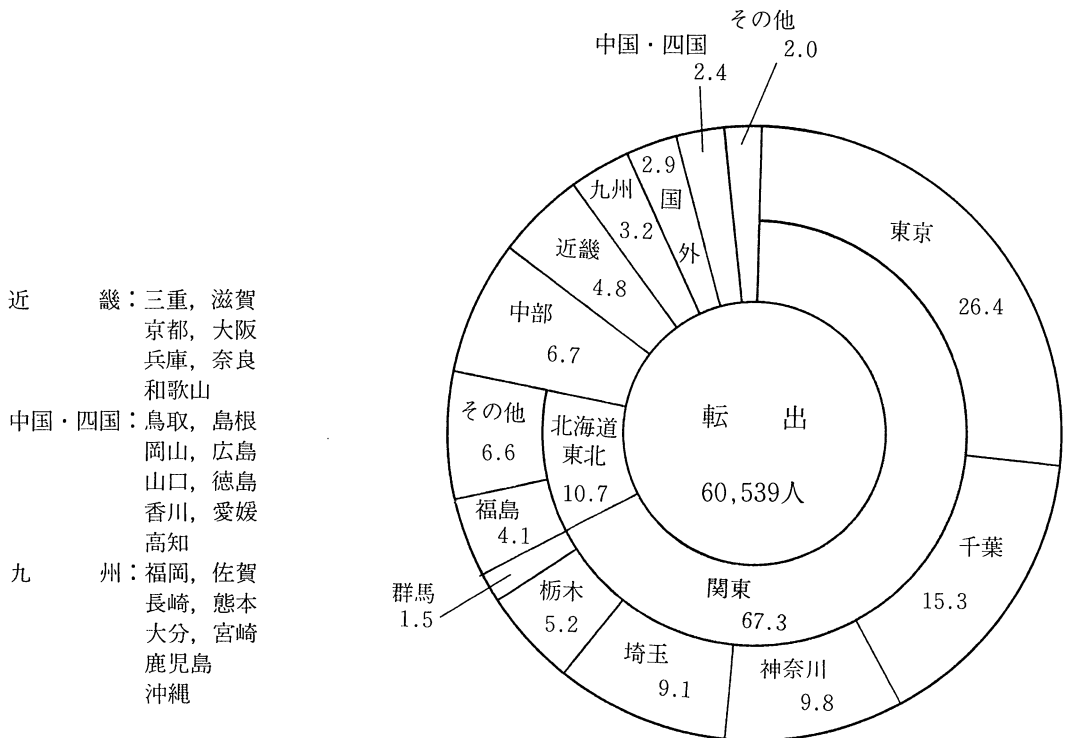
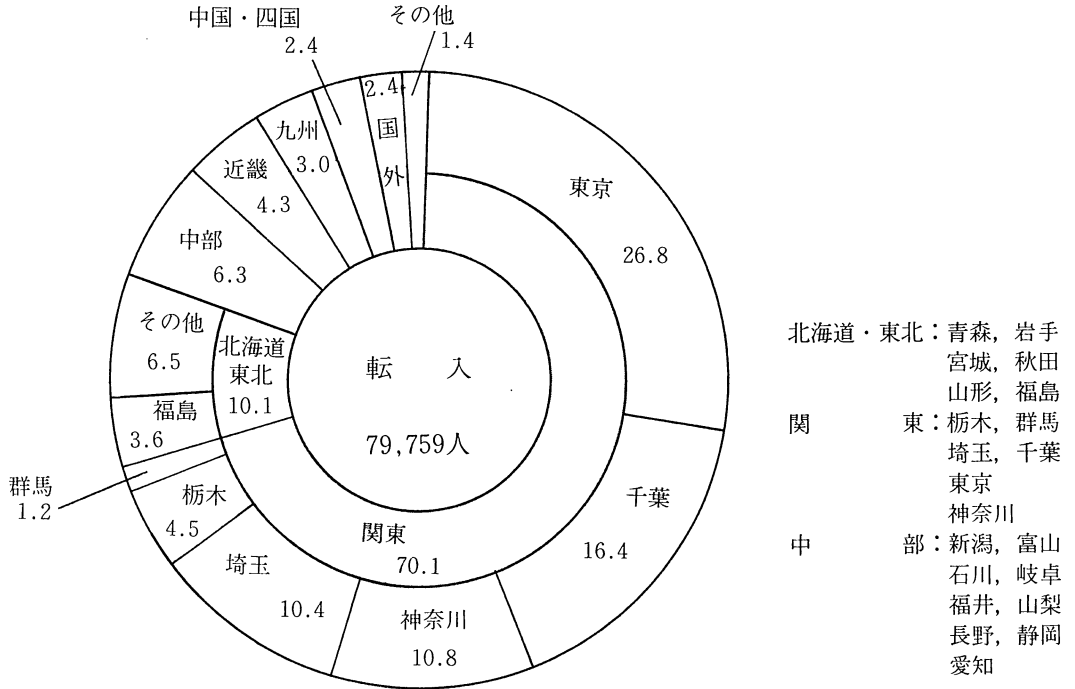
また，転入転出率でみると転入転出ともに県南が高く，県北平担が低くなっており，特に転入率において県南が54年の6.4%をピークに55年 5.5%，56年 4.8%，57年 4.8%と高い水準を保っているのに対し，県北山間は57年 1.4%と県平均 3.0%を1.6ポイント下回った低率となっている。

表14 地域別にみた主な県外との移動状況

(単位：人，%)

地 域		県外総数	東京都	千葉県	神奈川県	埼玉県	栃木県	福島県	群馬県	その他
県	移動数	137,973	37,363	22,347	14,502	13,800	6,791	5,343	1,860	35,967
	割合	100.0	29.2	17.5	11.3	10.8	5.3	4.2	1.5	28.1
県北平担	移動数	36,939	9,286	4,074	4,138	3,069	1,447	2,764	669	11,492
	割合	100.0	25.1	11.0	11.2	8.3	3.9	7.5	1.8	31.1
県北山間	移動数	8,875	2,928	866	1,233	865	625	882	119	1,357
	割合	100.0	33.0	9.8	13.9	9.7	7.0	9.9	1.3	15.3
鹿 行	移動数	12,454	2,726	3,382	1,171	776	121	260	61	3,857
	割合	100.0	21.9	27.2	9.4	6.2	1.0	2.1	0.5	31.0
県 南	移動数	56,679	16,215	11,823	5,947	4,532	1,061	1,013	683	15,405
	割合	100.0	28.6	20.9	10.5	8.0	1.9	1.8	1.2	27.2
県 西	移動数	23,026	6,208	2,202	2,013	4,558	3,537	424	328	3,756
	割合	100.0	27.0	9.6	8.7	19.8	15.4	1.8	1.4	16.3

図10 昭和57年県外転入出先別移動人員割合



人口移動を月別にみると、例年どおり、進学・就職時期の3～4月が最も多く、次いで8月が比較的高く、他の月は、ほぼ平均した動きとなっている。

図11 昭和57年月別転入転出状況

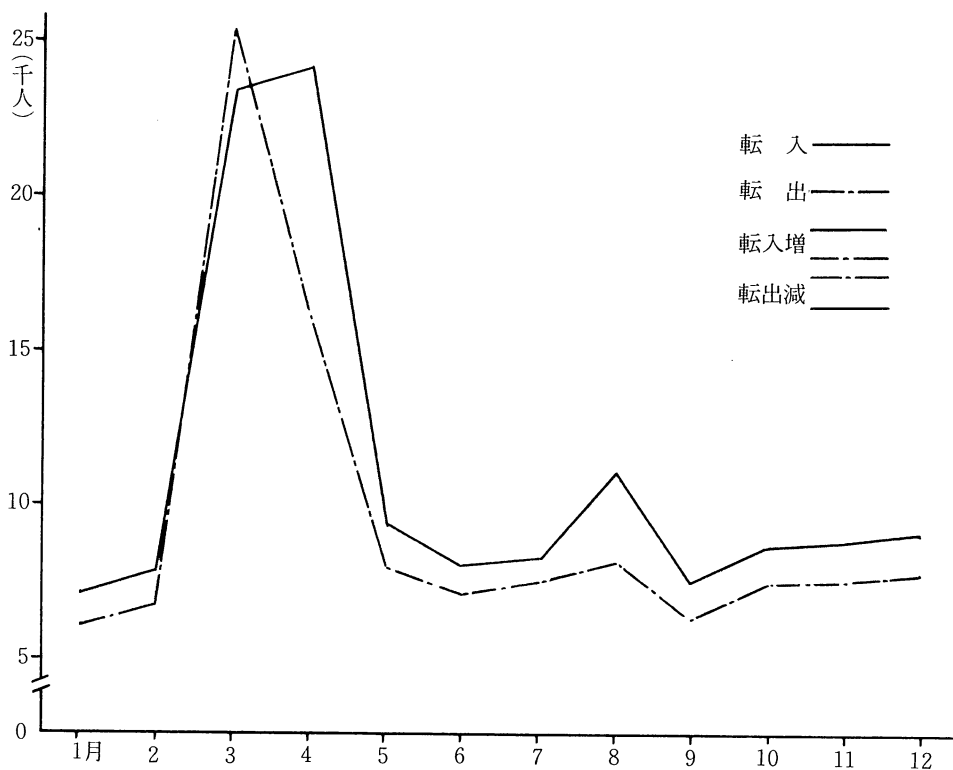


表15 地域別・社会増加、転入・転出数

地 域		53 年			54 年			55 年			56 年		
		社会増	転入	転出	社会増	転入	転出	社会増	転入	転出	社会増	転入	転出
県	人数	25,400	133,838	108,438	26,696	138,748	112,052	23,703	134,025	110,322	17,669	130,546	112,877
	%	1.0	5.5	4.5	1.1	5.6	4.5	0.9	5.3	4.4	0.7	5.1	4.4
県平担	人数	2,628	39,449	36,821	1,380	38,829	37,449	792	37,019	36,227	704	37,872	37,168
	%	0.3	5.3	4.9	0.2	5.1	4.9	0.1	4.8	4.7	0.1	4.9	4.8
県山北間	人数	△1,182	10,831	12,013	△1,002	11,094	12,096	△643	10,585	11,228	△350	10,842	11,192
	%	△0.4	3.6	4.0	△0.3	3.7	4.0	△0.2	3.5	3.7	△0.1	3.6	3.7
県鹿行	人数	△104	11,503	11,607	△476	11,174	11,650	886	11,983	11,097	272	11,320	11,048
	%	△0.0	5.0	5.0	△0.2	4.8	5.0	0.4	5.1	4.7	0.1	4.7	4.6
県南	人数	21,768	51,029	29,261	25,416	58,190	32,774	20,726	54,876	34,150	14,629	50,001	35,372
	%	3.3	8.0	4.6	3.8	8.8	4.9	3.0	7.9	4.9	2.0	6.9	4.9
県西	人数	2,290	21,026	18,736	1,378	19,461	18,083	1,942	19,562	17,620	2,414	20,511	18,097
	%	0.5	4.2	3.7	0.3	3.8	3.6	0.4	3.8	3.4	0.5	3.9	3.5

表16 地域別・県外との転入・転出数

(単位：人，%)

地 域		53 年		54 年		55 年		56 年		57 年	
		転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
県	人数	79,233	55,205	83,275	56,261	79,933	56,285	76,847	58,580	78,639	59,324
	%	3.3	2.3	3.4	2.3	3.2	2.2	3.0	2.2	3.0	2.3
県平担	人数	19,227	16,689	18,553	16,928	17,662	16,891	18,753	17,514	19,328	17,611
	%	2.6	2.2	2.4	2.2	2.3	2.2	2.3	2.1	2.5	2.2
県山北間	人数	4,642	5,292	4,520	5,060	4,476	4,766	4,532	4,754	4,333	4,542
	%	1.5	1.8	1.5	1.7	1.5	1.6	1.5	1.6	1.4	1.5
県鹿行	人数	6,925	6,700	6,350	6,443	7,014	6,069	6,559	6,126	6,290	6,164
	%	3.0	2.9	2.7	2.7	3.0	2.6	2.7	2.6	2.6	2.6
県南	人数	36,128	16,003	42,267	17,810	38,614	18,755	34,321	20,142	35,560	21,119
	%	5.7	2.5	6.4	2.7	5.5	2.7	4.8	2.8	4.8	2.8
県西	人数	12,307	10,521	11,585	10,020	12,167	9,804	12,682	10,044	13,128	9,898
	%	2.5	2.1	2.3	2.0	2.4	1.9	2.4	1.9	2.5	1.9

ウ 年令別移動状況

移動の状況を年齢5歳階級別にみると、移動者総数 249,248人のうち移動が最も多いのは20～24歳の46,954人（全体の18.8%）、25～29歳の41,653人（16.7%）、30～34歳の31,073人（12.5%）となっており、この3階層で全体の48%と約半数近くを占めている。

これを転入転出別にみると、転入では20～24歳の23,860人（転入者総数の17.8%）、25～29歳 22,205人（16.5%）、30～34歳 17,384人（12.9%）となり、転出では20～24歳が23,094人（転出者総数の20.1%）、25～29歳 19,448人（16.9%）、15～19歳 14,202人（12.4%）となっており、15～19歳階級を除いてはいずれの階級でも転入超過である。この15～19歳階級の転出が多いのは高等学校卒業者の進学・就職による移動が原因と考えられる。

地域別にみると全地域で20～24歳代が転入・転出ともに最も多く、次いで30～34歳階級が多い。また転出超過となっている15～19歳階級(1,995人)は県北山間で1,391人、県西 926人、鹿行 639人、県北平担 223人となっており、このほかに県北山間では20～24歳で417人、25～29歳で205人の転出超過がある。

図13 転出入者の年齢（5歳階級）別構成

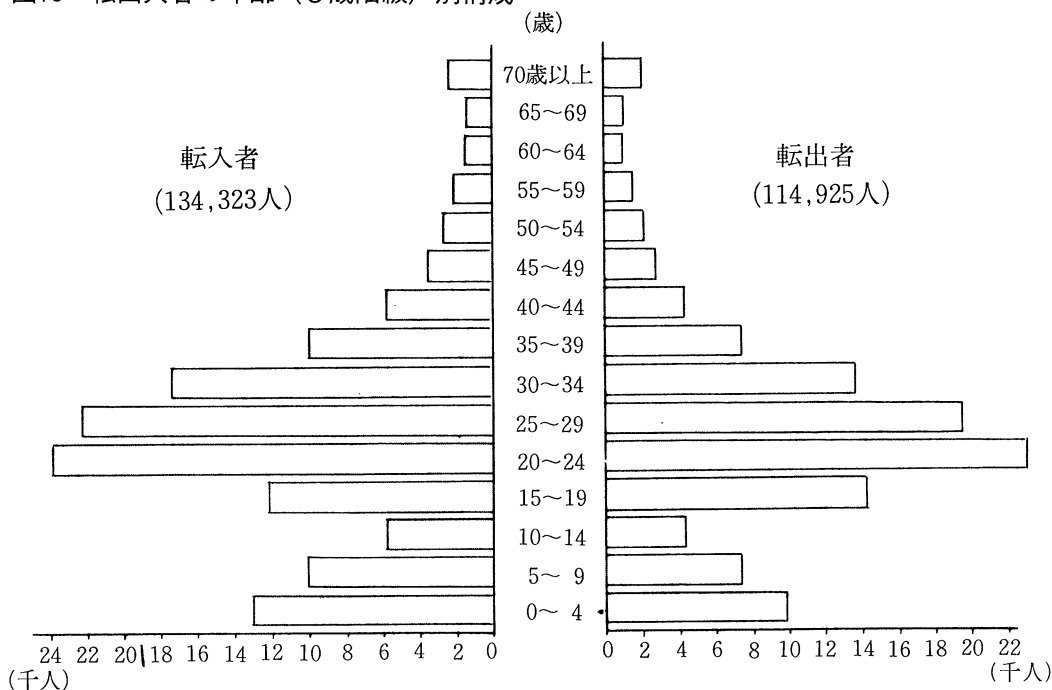


表17 年齢階級別転入・転出状況

(単位：人，%)

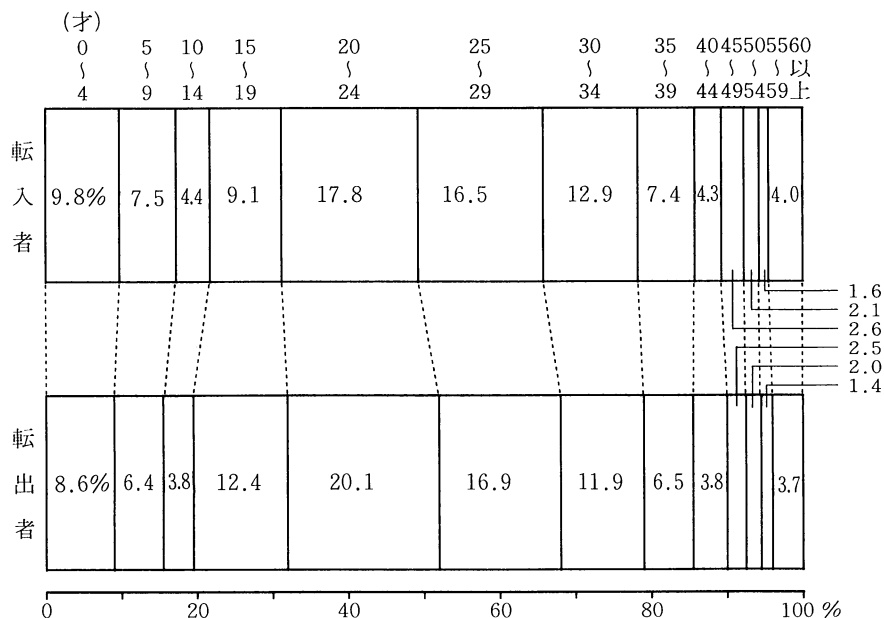
年齢階級	移動総数	移動割合	転入	転出	社会 増加数	増加割合	移動総数 の性比
総数	249,248	100.0	134,323	114,925	19,398	100.0	111.5
0～4	23,097	9.3	13,227	9,870	3,357	17.3	107.9
5～9	17,528	7.0	10,136	7,392	2,744	14.1	103.6
10～14	10,279	4.1	5,893	4,386	1,507	7.8	103.2
15～19	26,409	10.6	12,207	14,202	△1,995	△10.3	147.8
20～24	46,954	18.8	23,860	23,094	766	3.9	102.6
25～29	41,653	16.7	22,205	19,448	2,757	14.2	92.6
30～34	31,073	12.5	17,384	13,689	3,695	19.0	122.4
35～39	17,381	7.0	9,921	7,460	2,461	12.7	141.1
40～44	10,127	4.1	5,716	4,411	1,305	6.7	161.5
45～49	6,372	2.6	3,534	2,838	696	3.6	143.8
50～54	5,016	2.0	2,772	2,244	528	2.7	138.4
55～59	3,712	1.5	2,122	1,590	532	2.7	110.9
60～64	2,564	1.0	1,498	1,066	432	2.2	68.9
65～69	2,592	1.0	1,427	1,165	262	1.4	56.9
70～74	2,081	0.8	1,136	945	191	1.0	58.5
75～79	1,326	0.5	710	616	94	0.5	58.0
80～84	701	0.3	371	330	41	0.2	52.1
85～89	295	0.1	157	138	19	0.1	36.6
90～94	69	0.0	35	34	1	0.0	23.2
95以上	14	0.0	9	5	4	0.0	27.3
不詳	5	0.0	3	2	1	0.0	—

表18 地域別にみた年齢階級別移動状況

(単位：人)

地域 年齢階級	県	県北平担	県北山間	鹿行	県南	県西
総数	249,248	76,894	21,395	22,212	89,942	38,805
0～4	23,097	7,243	1,745	2,054	8,641	3,414
5～9	17,528	5,107	1,159	1,588	7,100	2,574
10～14	10,279	2,935	641	995	4,120	1,588
15～19	26,409	8,401	2,779	2,423	8,502	4,304
20～24	46,954	15,228	4,653	4,080	15,137	7,856
25～29	41,653	13,391	4,019	3,903	13,618	6,722
30～34	31,073	9,490	2,403	2,827	11,829	4,524
35～39	17,381	5,103	1,104	1,485	7,217	2,472
40～44	10,127	2,892	708	860	4,128	1,539
45～49	6,372	1,914	454	507	2,509	988
50～54	5,016	974	428	407	1,949	791
55～59	3,712	684	364	300	1,533	541
60～64	2,564	716	203	224	1,068	385
65～69	2,592	650	252	245	1,009	370
70～74	2,081	405	177	142	796	316
75～79	1,326	212	162	82	451	226
80～84	701	84	90	67	219	113
85～89	295	22	39	18	92	62
90～94	69	22	15	2	15	15
95以上	14	2	—	3	4	5
不詳	5	—	—	—	5	—

図14 転出入者の年齢（5歳階級）別移動人員割合



3. 世帯数

(1) 世帯数の推移

昭和58年1月1日現在の世帯数は725,293世帯で、前年（709,519世帯）に比べ15,774世帯、増加率で2.2%の増加となっている。

世帯数の推移をみると、昭和35年に40万台、45年50万台、51年60万台、そして56年に70万台に達し57年の世帯数は725,293世帯となって、世帯数が人口増加率を上回る率で増加を続けている。世帯規模においても昭和30年代から縮小傾向を示し、1世帯当りの人員は昭和35年の5.00人から一貫して毎年減少を続けており、57年は3.64人となった。
(10月1日現在)

(2) 昭和57年の世帯数

世帯数の地域別分布状況をみると、県北平担 236,645世帯（全体の32.6%）、県南 209,606世帯（28.9%）、県西 132,417世帯（18.3%）、県北山間 82,403世帯（11.4%）、鹿行 64,222世帯（8.9%）の順となっている。

これを対前年の増加率でみると県南が3.5%、県北平担2.0%、県西 1.9%、県北山間及び鹿行が1.1%とそれぞれ増加している。た1世帯当り人員は県北平担が3.36人と最も少なく、次いで県南 3.63人、県北山間 3.71人、鹿行 3.79人、県西 4.02人の順となっており、市町村で1世帯当り人員が最も少ないのは桜村の2.89人、最も多いのは猿島町の4.95人である。

図15 世帯数と1世帯当り人員の移りかわり

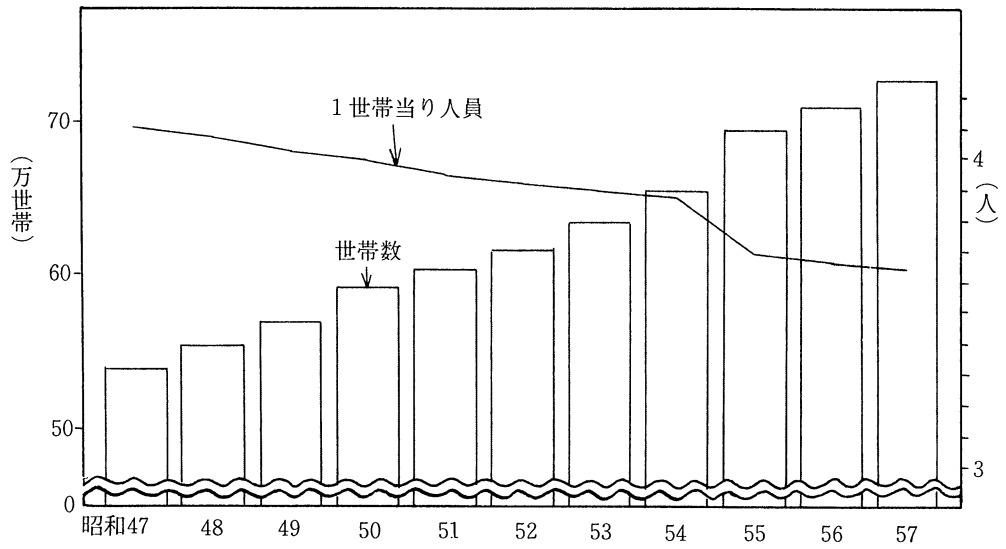


図16 地域別世帯数の推移

